

再生・感染病理学

1-1 構成員

平成29年3月31日現在

教授	1人
病院教授	0人
准教授	1人
病院准教授	0人
講師(うち病院籍)	0人 (0人)
病院講師	0人
助教(うち病院籍)	2人 (0人)
診療助教	0人
特任教員(特任教授、特任准教授、特任助教を含む)	0人
医員	0人
研修医	0人
特任研究員	0人
大学院学生(うち他講座から)	2人 (2人)
研究生	1人
外国人客員研究員	0人
技術職員(教務職員を含む)	1人
その他(技術補佐員等)	2人
合 計	10人

1-2 教員の異動状況

岩下 寿秀(教授)(H20.12.1～現職)
小杉伊三夫(准教授)(H15.11.1～H.19.3.31 助教授;H19.4.1～現職)
河崎 秀陽(助教)(H17.4.1～H19.3.31 助手;H19.4.1～現職)
目黒 史織(助教)(H25.4.1～現職)

2 講座等が行っている研究・開発等

1	(1) 研究・開発等のテーマ名 筋線維芽細胞のcharacterization
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略 炎症および線維化の過程で出現する筋線維芽細胞は臓器の線維化(肺線維症、肝硬変など)において、非常に重要な役割を果たしているが、その実態は明らかでないことが多い。FACSを用いて筋線維芽細胞を純化する方法を開発し、筋線維芽細胞の性格を明らかにする。
2	(1) 研究・開発等のテーマ名 新規病理組織マーカーの開発
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略 毛細血管の周囲の取り巻く周皮細胞(pericyte)のマーカーが欠如しているため、pericyte由来と考えられている腫瘍の同定が困難である。10%ホルマリン固定・パラフィン包埋ヒト病理検体に応用可能なpericyte特異マーカーを検討するため16種類のタンパク質(α SMA、PDGFR β 、CD90、CD146、NG2等)に対する抗体を用いヒト皮膚の免疫染色を行ったところ、どの抗体もpericyte特異的ではないことを証明している。
3	(1) 研究・開発等のテーマ名 線維芽細胞のheterogeneity
	(2) 研究・開発等の背景、目的、内容の概略 多様な fibroblast を分離する細胞表面マーカーが 確立されていないので、fibroblast の多様性に関する研究は、今までほとんど進んでいなかった。

3 論文、症例報告、著書等

	平成28年度
(1) 原著論文数(うち和文のもの)	4編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	13.068
(2) 論文形式のプロシーディングズ及びレター	0編
そのインパクトファクターの合計	0.000
(3) 総説数(うち和文のもの)	1編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	1.425
(4) 著書数(うち和文のもの)	0編 (0編)
(5) 症例報告数(うち和文のもの)	2編 (0編)
そのインパクトファクターの合計	2.482

(1) 原著論文

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1. Meguro S, Akamatsu T, Matsushima S, Kosugi I, Kawasaki H, Arai Y, Baba S, Tsuchida T, Shido Y, Suda T, Iwashita T. Phenotypic characterization of perivascular myoid cell neoplasms, using myosin 1B, a newly identified human pericyte marker. Human pathology 62:187-198. 2017	2.791

論文数(A)小計 1 うち和文 0 IF小計 2.791

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.	IF
1. Enomoto Y, Inui N, Yoshimura K, Nishimoto K, Mori K, Kono M, Fujisawa T, Enomoto N, Nakamura Y, Iwashita T, Suda T. Lung cancer development in patients with connective tissue disease-related interstitial lung disease: A retrospective observational study. Medicine (Baltimore). 2016 Dec;95(50):e5716.	2.133
2. Enomoto Y, Suzuki Y, Hozumi H, Mori K, Kono M, Karayama M, Furuhashi K, Fujisawa T, Enomoto N, Nakamura Y, Inui N, Suzuki D, Ogawa N, Nakashima R, Mimori T, Iwashita T, Suda T. Clinical significance of soluble CD163 in polymyositis-related or dermatomyositis-related interstitial lung disease. Arthritis Res Ther. 2017 Jan 19;19(1):9.	3.979

論文数(B)小計 2 うち和文 0 IF小計 6.112

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Kudoh A, Miyakawa K, Matsunaga S, Matsushima Y, <u>Kosugi I</u> , Kimura H, Hayakawa S, Sawasaki T, Ryo A. H11/HSPB8 restricts HIV-2 Vpx to restore the anti-viral activity of SAMHD1. Front Microbiol 7:883, 2016.	4.165

論文数(C)小計 1 うち和文 0 IF小計 4.165

(3) 総説

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Kawasaki H, <u>Kosugi I</u> , Meguro S, Iwashita T. Pathogenesis of developmental anomalies of the central nervous system induced by congenital cytomegalovirus infection. Pathol Int, 67(2):72-82, 2017	1.425

総説数(A)小計 1 うち和文 0 IF小計 1.425

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

総説数(B)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

総説数(C)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

(5) 症例報告

A. 筆頭著者が浜松医科大学の当該教室に所属していたもの

症例報告数(A)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

B. 筆頭著者が浜松医科大学の他教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの(学内の共同研究)

筆頭著者, 共著者: タイトル, 雑誌名, 巻, 初頁-終頁, 掲載年.		IF
1.	Kiyoshi Misawa, Hideya <u>Kawasaki</u> , Rieko Matsuo, Kenichi Sugiyama, Daiki Mochizuki, Shiori Endo, Atushi Imai, Yuki Misawa, Takashi Yamatodani, Kunihiro Mizuta, Hiroyuki Mineta. Human papillomavirus-associated small cell carcinoma/neuroendocrine carcinoma of the oropharynx: a report of two cases, Springerplus, 5(1): 1847, 2016	0.982
2.	KIYOSHI MISAWA, HIDEYA KAWASAKI, SHIORI ENDO, DAIKI MOCHIZUKI, KOTARO MORITA, YUICHI HASHIMOTO, YUKI MISAWA, HIROTOSHI KIKUCHI, TAKEHARU KANAZAWA, <u>TOSHIHIDE IWASHITA</u> , and HIROYUKI MINETA. Primary combined small and squamous cell carcinoma of the hypopharynx: A case report, Mol Clin Oncol, 4(5): 709-714, 2016	1.500

症例報告数(B)小計 2 うち和文 0 IF小計 2.482

C. 筆頭著者が浜松医科大学以外の教室に所属し、共著者が当該教室に所属していたもの

症例報告数(C)小計 0 うち和文 0 IF小計 0.000

4-1 特許等の知的財産権の取得状況

	平成28年度
特許等取得数(出願中含む)	2件

1.	(出願中) 発明者(代表者): 河崎秀陽 特願番号: 特願2016-091820
2.	(出願中) 発明者(代表者): 河崎秀陽 特願番号: 特願2016-237703

4-2 薬剤、医療機器等の実用化、認証、承認、製品化、販売等の状況

	平成28年度
実用化、認証、承認、製品化、販売数	0件

5 医学研究費取得状況

	平成28年度	
	件数	金額 (万円未満四捨五入)
(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)	4 件	370 万円
(2) 厚生労働科学研究費	0 件	0 万円
(3) 日本医療研究開発機構(AMED)による研究助成	0 件	0 万円
(4) 科学技術振興機構(JST)による研究助成	0 件	0 万円
(5) 他政府機関による研究助成	0 件	0 万円
(6) 財団助成金	0 件	0 万円
(7) 受託研究または共同研究	1 件	1,800 万円
(8) 奨学寄附金	3 件	150 万円

(1) 科学研究費助成事業(文部科学省、日本学術振興会)

1. 河崎秀陽(代表), 岩下寿秀, 小杉伊三夫(分担), 基盤研究(C), ヒトiPS細胞由来3次元培養組織を用いたウイルス大脳感染機序の解析, 平成26年度~平成28年度	80万円
2. 小杉伊三夫(代表), 基盤研究(C), サイトメガロウイルス感染による絨毛間質血管リモデリング異常と胎盤・胎仔障害の解析, 平成27年度~平成29年度	120万円
3. 岩下寿秀(代表), 目黒史織(分担), 基盤研究(C), 筋線維芽細胞へ分化する線維芽細胞の同定と臓器線維症の制御, 平成28年度~平成30年度	70万円
4. 目黒史織(代表), 若手研究(B), ヒトpericyte特異的マーカーの検討および病理診断学への応用, 平成26年度~平成28年度	100万円

(7) 受託研究または共同研究

1. 遠州予防医学研究所 松田病院 豊橋医療センター 菊川市立病院	1800万円
-----------------------------------	--------

6 大型プロジェクトの代表, 総括

7 学会活動

	(1) 国際学会	(2) 国内学会
1) 基調講演・招待講演回数	0 件	0 件
2) シンポジウム発表数	1 件	0 件
3) 学会座長回数	0 件	1 件
4) 学会開催回数	0 件	0 件
5) 学会役員等回数	0 件	1 件
6) 一般演題発表数	0 件	

(1) 国際学会等開催・参加

2) 国際学会・会議等でのシンポジウム発表

1. Hideya Kawasaki, Cytomegalovirus Initiates Infection Selectively from High-Level β 1 Integrin-Expressing Cells in the Brain, The 16th Kyungpook-Hamamatsu Joint Medical Symposium Hamamatsu Meeting, Japan, December 2016

(2) 国内学会の開催・参加

3) 座長をした学会名

1. 日本病理学会総会 仙台 2018年5月12-14日

5) 役職についている国内学会名とその役割

1. 静岡県臨床細胞学会 役員(細胞診従事者講習会担当) 2015年4月~

8 学術雑誌の編集への貢献

	(1) 外国	(2) 国内
学術雑誌編集数(レフリー数は除く)	3 件	1 件

(1) 外国の学術雑誌の編集

1. World Journal of Virology, Editorial Board, pubmed登録有り、impact factor無し
2. Austin Virology and retrovirology, Editorial Board, pubmed登録無し、impact factor無し

3. Frontiers in microbiology, Frontiers media SA, Review editor, PubMed(NLM Unique ID: 101548977), IF:4.165

(2) 国内の英文雑誌等の編集

1. Pathology International, 日本病理学会, 刊行委員, PubMed(NLM Unique ID: 9431380), IF:1.691

(3) 国内外の英文雑誌のレフリー

1. International Journal of Molecular Sciences 1回
2. the World Journal of Gastroenterology 2回
3. Journal of Infection and Chemotherapy 1回
4. Frontiers in microbiology, 1回
5. Plos One 1回

9 共同研究の実施状況

	平成28年度
(1) 国際共同研究	2 件
(2) 国内共同研究	6 件
(3) 学内共同研究	1 件

(1) 国際共同研究

1. Hox遺伝子による神経堤細胞の特異性決定と遊走能について アメリカ合衆国(ミシガン大学)2009年～、資料の交換
2. CMVの胎生期脳感染(ジョンズ・ホプキンス大学神経科学部、ハーバード大学ベス・イスラエル・デコネス病院内科、カリフォルニア大学サンフランシスコ校細胞組織生物学研究室)2007年～、資料の交換

(2) 国内共同研究

1. 神経芽腫幹細胞の研究(愛知県立看護大学)
2. 炎症性腸疾患のマウスモデル(京都大学医学部)
3. 神経幹細胞を用いたips細胞の作製(横浜市立大学医学部)
4. 経胎盤CMV感染症(岐阜薬科大学)
5. 乳腺針生検体の多施設比較(NHO名古屋-乳腺病理遠隔診断共同研究)
6. コカイン誘発性行動感作とMHC抗原クラスI分子に関する研究(埼玉医科大学)

(3) 学内共同研究

1. 耳鼻科的領域のがん研究

10 産学共同研究

	平成年度
産学共同研究	0 件

11 受賞

12 新聞、雑誌、インターネット等による報道

1. 病原体の形や形状を学ぶ、静岡新聞、2016年8月24日

13 その他の業績